

上厚真小学校の4年生は8月3日、ふるさと教育の一環として浜厚真海岸で初のサーフィン授業を行い、児童たちは時間の経過と共に不安定なサーフボードを乗りこなしました。

浜厚真海岸は、年間約6万人が訪れる道内のサーフスポットで、地域のスポーツを体験しようと、授業が組み込まれました。砂浜で体をほぐし、サーフボードへの立ち方などを学んだ子どもたちは、海に入って実践練習。町内の愛好家など7人からアドバイスを受けながら、重心を低くして両手でバランスを取り、サーフィンの楽しさを体験しました。

上厚真小で初のサーフィン授業



世界の珍しい昆虫に子どもたちくぎ付け



町教育委員会が青少年センターの町民ギャラリーで開いた特別展「世界の昆虫展」(8月6日～17日)は、所蔵する1万頭を超える昆虫標本の中から、珍しいチョウを中心に4,000点余りを紹介しました。

ひと際、注目を集めたのが、世界三大美蝶と言われる「モルファチョウ」。特に、南米産の「レテノールモルファ」は最も美しいとされ、羽の内側にある光沢がサファイアのように輝きます。顔を近づけて観察したり、スマートフォンで写真に収める人もいました。

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、来場者は町内が中心でしたが、延べ159人が珍しい昆虫標本に見入っていました。

町が山内末治さん 100歳のお祝い

町は、満100歳を迎えた山内末治さん(厚和)に8月17日、百寿のお祝いを贈りました。

山内さんは、大正9年8月10日に7男2女の9人兄弟の6男として生まれ、結婚後は2人の子を育てました。聴力がやや衰えているものの会話には支障はなく、つえをつきながら歩くこともでき、数年前までは自転車に乗っていました。おやつが好きで晩酌も欠かさず、外を眺めながらその日の出来事を日記にしたためているそうです。

町長は「町の最高齢記録は106歳。長寿記録を更新してください」と声を掛けました。



百寿を祝う山内末治さん(左から)の次女、坂次町の長女、佐藤真澄さん、宮内肇さん

震災前に誕生した幼児に君の椅子贈呈



町は8月7日、平成30年9月の胆振東部地震以前に誕生した幼児18人に、町内の工芸家が真心を込めて制作した木製の「君の椅子」をプレゼントしました。

同年4月1日から9月5日までに出生した子どもが対象で、町長が厚南会館と総合福祉センターで椅子を贈りました。宮坂町長は「胆振東部地震で、改めて命の尊さを実感しました。町もしっかり育児をサポートします」と話し、一人ひとりに名前が刻まれた椅子を手渡しました。

食品衛生協調月間で表敬訪問

「食品衛生協調月間」(8月31日まで)の取り組みで、苫小牧保健所や苫小牧地方食品衛生協会の関係者4人が7月31日、宮坂町長に食中毒の未然防止に協力を呼びかけました。

訪れたのは、同保健所の岡聖一生活衛生課長、同協会の福原次郎会長と協会厚真支部の下司義之支部長、同支部事務局の小寺せい子さん。一行は、これまでの町の取り組みに感謝すると共に、引き続き食中毒の未然防止への協力を求めました。



あつま森むすびの会が上厚真小で“森の学校”



特定非営利活動法人「あつま森林むすびの会」(山路秀丘会長)は7月27日から30日までの4日間、上厚真小学校の3、4年生に環境教育プログラム“森の学校”を開きました。児童たちは、木の成長を学び、伐採した木で遊具を作るなど、森との触れ合いを通じて自然の魅力を体験しました。

同校のグラウンドに隣接した「げんきの森」は、樹齢50年を超える木々があり、エゾリスも姿を見せる豊かな自然が広がっています。同会は、情操教育の一環としてげんきの森で初めて森の学校を企画し、町教育委員会の協力で実現しました。

授業は学年ごとに行われ、教室での座学と森に出かけての野外授業で構成しました。児童たちは、会員の説明に耳を傾け、伐採した根回り約25cmのカラマツの年輪を数えて樹齢を確かめたほか、歓声を上げながら手作りしたシーソーやブランコで遊びました。

地域の未来は人づくりがカギ ローカルモーカル講演会

町の可能性を考える「ローカルモーカル講演会」(株式会社エーゼロ厚真主催)が8月3日、総合福祉センターで開かれ、約70人が町のローカルベンチャースクールの現状などについて理解を深めました。

同社は、平成28年度から町の事業を受けてローカル



ベンチャー等推進事業を展開。地域おこし協力隊員の募集や情報発信などを行っています。代表取締役の牧大介さんが講師を務め、「ローカルベンチャーの今とこれから～僕らは地域の可能性を信じている」について講演しました。

牧さんは、ローカルベンチャースクール事業でカギを握るのは「人」と指摘。その上で、牧氏は「地域の未来づくりに信念を持つ人が集まることで、熱量(想い)は人から人に連鎖し、地域が活性化し、新たなチャレンジが生まれます」と説明しました。また、現在、町では有意な人材の芽が出始めた状態とし、「どのように人を育てていくかが今後の課題です」と語りました。

講演では、岡山県西栗倉村での事例も紹介。「人材育成に時間はかかりますが、新たな事業に挑戦する文化が生まれ、地域は活性化しています」と強調しました。